



青き楓

島高だより
平成23年12月号
(通巻第69号)
長崎県立島原高等学校
編集：情報図書部

校長室から

「就活と自己表現」

校長 辰田幸敏



大学3年の秋から冬になると、企業と学生の接触が本格化し、「就活」がスタートダッシュの様相を見せるようだ。次々に会社説明会、OB・OG訪問、志望企業にウェブ登録、エントリーシート・履歴書提出が行われ、大学4年の4月以降は筆記試験や面接が始まる。

そんな中で、新聞に掲載されていた「就活」初期に出遅れる3パターンを紹介する。

- ① 付和雷同型…会社説明会で人の集まるブースばかり行き、個別行動ができない。周囲ばかり気にして自分の持ち味に気づかず、自信がない。
- ② 部活熱中型…「部活をしているので内定はとれる」と漠然と思いこんでいる。同級生を見ると就活に乗り遅れた気持ちが出て、ますますスタートできない。
- ③ 現実逃避型…就活の話聞くだけでげんなり。やる前からやる気をなくしている。今の就活は間違っていると考え、就活中の学生を冷ややかに見る。

また、ある調査機関が就職が決まらないまま卒業する学生の主な特徴を5つあげている。①考えをうまく表現できない(80.7%) ②就活のスタートが遅い(75.4%) ③何をすべきかわからない(75.4%) ④自信がない(73.2%) ⑤教職員に相談しない(72.3%)である。

近年、インターネットによる就活が中心となっているが、直接会社訪問を行い自分を売り込むという基本が、就職難の昨今ますます求められるとも指摘している。



1月の主な行事予定



3日(火)	3年生センター試験プレテスト (~4日)	17日(火)	3年生特別編成授業開始 1年生理数科地学セミナー
5日(木)	3年生冬季補習(~7日)	18日(水)	1・2年生情報モラルマナー 指導(LHR)
6日(金)	1・2年生冬季補習(~7日)	20日(金)	東大金曜講座
8日(日)	2年生中地区学習交流会(~9日) 会場:大村高校※希望者のみ	21日(土)	1年生対外実力テスト 2年生対外実力テスト(~22日)
10日(火)	3学期始業式 1・2年生校内実力テスト(~11日)	24日(火)	まゆやまロード健脚大会・ PTA炊き出し
13日(金)	大学入試センター試験出陣式	27日(金)	東大金曜講座
14日(土)	大学入試センター試験(~15日) 会場:長崎大学	28日(土)	3年生土曜講座
	1・2年生土曜講座		



2学年主任 吉田 英雄

4日目以降、若干天候が崩れましたが、予定通りの研修ができました。奈良・京都では歴史的な建造物に圧倒され、美しい紅葉に魅了される等、感動の連続でした。東京での事業所研修では将来の進路選択に向けた学習ができ、都内研修&東京ディズニーランドを大いに満喫できました。期間中、多少指導する場面はありましたが、生徒たちの動きはスムーズで、ホテルの方々、業者の方々からも「こんなに動ける集団、礼儀正しい集団は初めてです。」と過分なお褒めの言葉も頂きました。少しずつではありますが、成長している生徒たちの姿を垣間見ることができました。今回の研修を機にますます成長を続ける学年でありたいと切に願っています。またそうなるように指導を継続したいと思っています。



施設見学



奈良公園



東大寺

生徒の感想から

4泊5日の修学旅行は、本当に楽しく過ごすことができました。福岡のヤクルト工場見学から始まり、浅草周辺の研修まで、「あっ」と言う間でした。沢山の思い出をつくることができました。また、この修学旅行では、ただ楽しむだけでなく、この旅行に関わるすべての人、研修先やその地域の多くの方々に、お世話になっている(迷惑もかけたりしている)ということを感じました。そして、一番大事にすべきことは「周囲の人に対する感謝の気持ち」だとわかりました。また、クラスの仲間、学年の仲間、引率の先生方との距離も縮まり、改めて「チーム島高」であることを意識しました。

奈良・京都では歴史的な建造物ときれいな紅葉、東京では超高層ビルなど、感動の連続でした。『内心は すごく怖い がついて行き 三大絶叫 乗り尽くす』小雨の中でしたが、ディズニーランドもとっても楽しかった。

本当に貴重な経験をさせて頂いた5日間。この中で学んだことすべてをこれからの生活に上手く生かしていくことが一番の恩返しではないかと考えています。



事業所研修



ディズニーランド



浅草・雷門

剣道部

県民表彰

第66回国民体育大会 剣道競技 少年少女の部 長崎県選抜チーム

主な成績・表彰

理数科8期生

求む!若者のアイデア!島原半島の“お宝掘り起こし”保全・活動コンテスト
優秀賞 (半島の魅力体感コースマップ部門)

全日本レスリング選手権大会 男子フリースタイル120kg 準優勝 馬場祐太郎 先生
全日本相撲選手権大会 第5位 高橋 修 先生

「理数科」地学セミナー



本校理数科の活動の中心であるSPP(Science Partnership Project)を今年も1年生の理数科で実施しています。

今年は「ジオパークと災害・防災」というテーマで寺井邦久先生(雲仙岳災害記念館)に講師をお願いし、11月8日(火)を皮切りに、2月5日までの全5回にわたり講座・実習を実施しているところです。現在、3回目の地学巡検まで終了していますので、その様子を紹介します。

理数科主任 細田 正俊



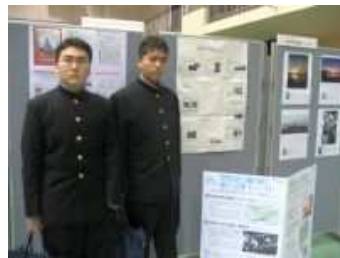
地質調査

地学巡検(島原半島南部の特徴的な地質学的遺産の見学)

12月13日(火)に島原半島南部のジオサイト巡検を実施しました。見学場所は垂木台地、大野木場小学校、深江断層、布津断層、諏訪の池、津波見海岸、早崎海岸、原城、龍石海岸です。地層や岩石、断層を見学することにより、島原半島の地質学的成り立ちを知ることができました。また、水無川の砂防ダムの構造、眉山崩壊の際の津波が布津にある鹿鳴館付近を越え遡上高が57mを記録したことなど災害や防災に関しても説明をしていただきました。

生徒たちは、多くの驚きや新しい発見とともに島原半島の見方が変わってきたようです。今後、この巡検で得たことを参考に、各自が自分の町にあるジオサイトの紹介を行う研修をしていきます。

理数科2年生「おらが町のジオパークマップ」発表で優秀賞受賞



12/11(日)に環境省九州地方環境事務所、雲仙プラン100プロジェクト主催の「雲仙プラン100発表シンポジウム」があり、本校の理数科2年生の代表2名が研究発表を行いました。この発表は、理数科2年生(8期生)が1年次に「おらが町のジオパークを探索」というテーマで、生徒一人ひとりが自分の家の周りなど身近にあるジオサイトを調査し、それをまとめたものです。この調査研究の発表を雲仙100プロジェクトが企画した「島原半島のお宝探し保全・活用コンテスト」の「半島の魅力体感コースマップ部門」に応募したところ、優秀賞を受賞することができました。1年次に

理数科全員で取り組んだ成果が評価されたもので、今後の研究活動の励みになると思います。今年の理数科1年生(9期生)も3学期に同様の取り組みを行う予定ですので、各自、興味をもって地元の自然の良さを体感してほしいと思います。



PTA連合会秋季研修会報告



去る11月26日、「学校行事に参加しやすい魅力あるPTA活動」を大会テーマとして、平成23年度島原地区高等学校・特別支援学校PTA連合会秋季研修会が島原市のホテル南風楼で開催されました。

各種委員会の報告のあと、「心と心を響きあわせて」と題して、前熊本県知事で現在、長崎国際大学学長の潮谷義子先生による講演が行われました。地域の自然や文化を大切に、毎日の暮らしを豊かにすることで、人は生きがいを見出すことができるというお話でした。また、昨年に引き続きパネルディスカッションが行われ、大会テーマである「学校行事に参加しやすいPTA活動」について、それぞれの立場から活発な意見交換が行われました。

来年度も、ぜひ多くの保護者のみなさんのご参加をお待ちしています。

1年生異世代交流体験学習

1学年主任 島田 朋成

3年前から小高連携(島原一小児童との連携)清掃活動として実施してきた1学年の清掃ボランティア活動。今年は「異世代交流体験学習」として、12月7日(水)に1学年230余名が4つのグループに分かれて活動しました。①学校周辺の地域清掃を城内・先魁地区の方々と、②一番街・サンシャイン中央街両アーケードの清掃を商店街の方々とそれぞれ一緒に行いました。また、③福祉施設「ありあけ荘」では39名がお年寄りとの交流会、④清華保育園では41名が4歳児・5歳児の園児たちと触れあいました。このうちの交流会2つについて生徒の感想を紹介します。

ありあけ荘

私が話をしたおばあちゃんは若くして病気になり、つらい人生を送ってきたと話され、子どもも孫もないから寂しいと言っていました。それを聞いたら、悲しくなっておばあちゃんにぎゅっと抱きついたら、笑顔で「ありがとね」と言ってくださってよかったです。いろいろな事情を抱えている人がいるんだとよく分かりました。目線を合わせ、目を見て話すだけで、相手の方が今嬉しいのか、悲しいのか、表情に表れていて話しやすかったです。最後の挨拶をする時には、皆さん幸せそうな顔でこちらを見ていたので、もっと話したかったし、お別れしたくないと思いました。



おじいちゃんも楽しそう

清華保育園

4~5歳の子どもたちと触れあい、園長先生の講話を聞いて思ったのは、保育園の先生方はとても大きな責任を背負っているということです。ただ「お世話をする」ということではなく、子どもに「安心」を与えることが大切な仕事なのだと思います。実際に先生方を見ると、いろいろな事に目を配っているのが分かり尊敬しました。



園児は元気いっぱい

園児と遊んでいて、自分の幼い頃を思い出し、やっぱり子どもは繊細だと思いました。子どもの目線に立って考えることは難しいけれど、分かり合えたときの喜びは何よりも大きいと感じました。

歳末助け合い募金活動



生徒会指導部主任 谷口 英次

12月12日~16日までの校内での募金に加え、12月13日、14日の両日、街頭での募金活動を実施しました。参加した生徒たちは、エテナ島原店、ダイエー島原店、ウィルビーの3カ所に分かれて、大きな声で募金をお願いしていました。今年も厳しい経済状況の中、たくさんの募金をいただきました。募金は長崎新聞社を通じて共同募金会に届けます。ご協力ありがとうございました。

生徒感想



ありがとね！

●最初は恥ずかしかったけど、だんだんと声も出せるようになっていきました。通りかかった方のほとんどが募金をしてくださって、中には「お疲れ様」と声をかけてくださる方もいて、地域の方々の温かさを感じました。(1年女子)

●昨年度も募金活動に参加させていただきましたが、今年は東日本大震災があったこともあり、募金が集まるのだろうかと不安でした。ですが、小さな子供からお年寄りの方まで、私達を見ただけで募金してくださり、さらには「ご苦勞様です」「寒いのに頑張るね」といった温かい言葉も頂いて、とても嬉しく思いました。この2日間の活動は、自分にとってとても貴重な体験となりました。(2年男子)

校内募金 49,753円 + 街頭募金 116,545円 = 計 166,298円